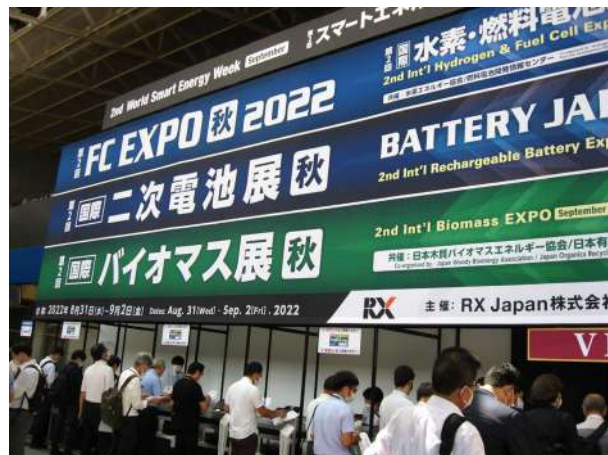




展示会視察資料

FC EXPO秋2022

二次電池展【秋】

(スマートエネルギーWeek【秋】 内)

脱炭素経営EXPO【秋】

オートモーティブワールド【秋】

ネプコンジャパン【秋】



2022年8月31日（水）～9月2日（金）幕張メッセ

東京アールアンドデーでは、最新の市場や技術動向をチェックするために、多くの展示会に足を運んでいます。本資料では、カーボンニュートラルやサステイナブルをテーマとした大規模展示会の会場で目に止まったブースの見どころを紹介します。

幕張メッセの5つのホールに新エネルギーや脱炭素、自動運転などの最新技術が集結

今回足を運んだのは、国際的な見本市会場として知られる大型展示場・幕張メッセを舞台に、RX Japan株式会社が主催した大規模展示会です。4～6ホールの3館を使い、「第2回スマートエネルギーWeek【秋】」の名のもとに水素・燃料電池展の「第2回FC EXPO【秋】」、バッテリージャパンの通称を持つ「第2回二次電池展【秋】」などの次世代エネルギー関連6展を開催。「第2回脱炭素経営EXPO【秋】」も併催されました。

さらに隣接する2～3ホールでは自動運転を始めとするクルマの先端技術を集めた「第1回オートモーティブワールド」や、エレクトロニクスの開発・実装展の「第1回ネプコンジャパン」など4展を同時開催。幅広いカテゴリーのエンジニアや経営者が訪れて、最新の技術や装置、企業の情報を熱心に収集していました。

「スマートエネルギーWeek」としては同じ主催者が3月に東京ビッグサイトで開催した「春」のほうが古く、「FC EXPO」は第18回、「二次電池展」は第13回という実績とあいまって、自動車メーカーや重工業企業のプラントなどの大物も出展された総合見本市の様相でした。それと比べると「秋」開催は2回目となる今回は素材や加工技術、コンサルティングといった、より上流のカテゴリーの出展が目立ち、その分実践的な商談や取り組みの場としての空気が感じられました。

弊社では、展示会において主に自動車関連の情報収集を心がけていますが、本資料ではより広範囲に、目についたブースや話題をお伝えします。



東芝三菱電機産業（二次電池展）



東芝と三菱の産業システム部門が2003年に合併して誕生した企業。太陽光などの再生可能エネルギーシステムの出力安定に欠かせない、大容量リチウムイオン二次電池システムなどの大規模システムを訴求。二次電池展と脱炭素経営EXP0の2か所に出展していました。



ダッソーシステムズ（二次電池展）



フランスの航空機メーカーを前身に持つこちらは、自動車や航空宇宙、産業機械やエネルギーなどの幅広いビジネスに適用できる3Dシミュレーションソフトの第一人者。今回は、日進月歩の次世代電池用材料開発シミュレーションソフトを訴求しました。

木村洋行（二次電池展）

1923年にベアリングの輸入を始めたという産業用機械部品専門商社。航空機にも使われる精密ベアリングや工具などと共に、リチウムイオン電池セル用熱伝導性ギャップフィラーなども供給している。次世代電池の開発は、世界が一丸となった未来への挑戦なのだと実感します。



双日建材（二次電池展）



住宅の屋根上の太陽光発電システムで作った電気を効率的に蓄え、使い、売るハイブリッド蓄電システム（下）。台湾メーカーの製品を、日本の商社が輸入販売してます。



関西電力（脱炭素経営EXP0）

「みんなでアクションすすめ、ゼロカーボン！」を掲げる関西電力ブース。日野自動車とコラボして、バスやトラックなどの事業用車両を最適にEV化するコンサルティング事業をパッケージとして提供。

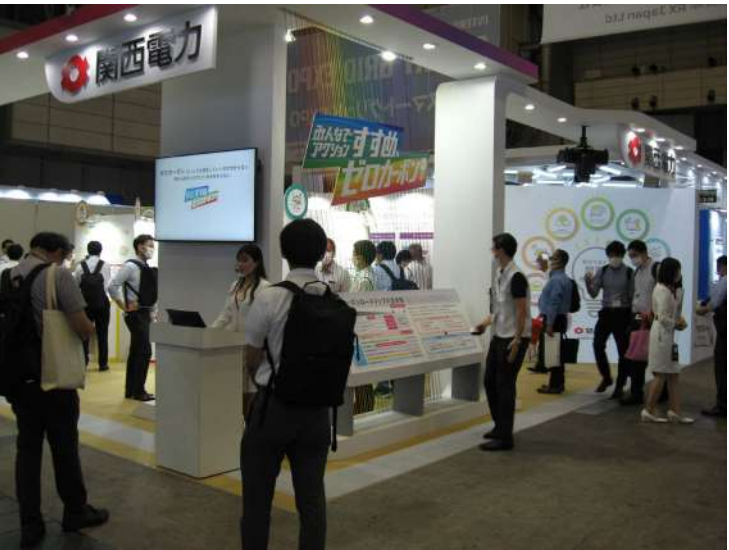
EVモビリティでゼロカーボンとコスト低減
関西電力でバスとトラックをEV化

車両・充電器・エネマネEVパッケージ

充電設備
充電器
充電設備
充電器

面側な作業なし！最適な充電量を自動で制御

関西電力 power with heart 0120-926-280



巴工業（脱炭素経営EXP0）



遠心分離機の製造が祖業というこちらは、その技術を活かして、下水処理場などの低温の排熱で発電できるバイナリ発電システムを開発中。現在は海外製がほとんどという国内市場開拓に挑みます。

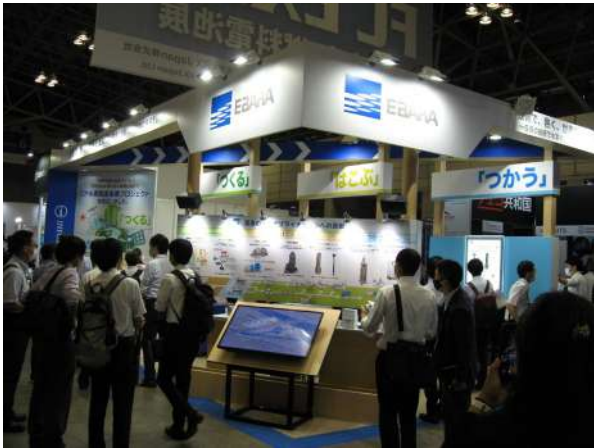
～100kW級バイナリ発電装置開発計画進行中～

バイナリ発電装置は、熱エネルギーを電力に変換する装置です。低温の排熱でも発電できるため、下水処理場などの低温の排熱で発電できるバイナリ発電システムを開発中。現在は海外製がほとんどという国内市場開拓に挑みます。

★国産！
★省スペース！
★省コスト！
★省メンテナンス！
★省騒音！
★省振動！
★省騒音！
★省振動！

巴工業株式会社 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

荏原製作所 (FC EXP0)



1912年にポンプメーカーとして創業し、主に水のエキスパートとして知られる荏原製作所。本展では、その技術力を生かし、水素を作る、運ぶ、使うのトータルソリューションを提供できる実力を訴求しました。

日東工器 (FC EXP0)

ドアクローザーから工具や医療機器など、幅広い製品群を持つメーカーは、超高圧の水素ホースを安全につなぐHHVカプラを出展。ISO規格で求められる1万5000回以上の耐久性を誇る。ちなみに、海外では規定の3倍の耐圧性能でOKとされるが、日本では4倍耐圧が求められるという。厳格なモノづくりが健在です。



四国総合研究所 (FC EXP0)

次世代エネルギーで筆頭格の水素は燃えても火炎が見えず、危険を察知しにくいのが難点。四国電力グループのこの企業では、センサー技術で水素の炎を可視化する装置を訴求。

三菱鉛筆 (二次電池展)

「ユニ」のブランドで知られる筆記具メーカーのブース。鉛筆やインク造りで培ったカーボン素材加工や材料分散技術は、燃料電池セパレーターや電極の開発でも活用できるという。納得。



リファインバース（オートモーティブワールド）



産業廃棄物処理を祖業とするこの企業は、今回はエアバッグなどの廃材を、リアミドと呼ぶバージン製品なみのナイロン素材に再生する技術を訴求。その高いリサイクル技術で実現させる爽やかな未来を、海辺の別荘を思わせる心地よい空間で表現してました。



精研（ネプコンジャパン）



精密検査治具の専門メーカーを中心に、基板実装や組み立て配線、精密カプラーメーカーなどの4社が共同出展したブース。ICチップの配線をあしらった壁のデザインも楽しいが、各社の得意分野を盛り込んだNゲージのジオラマが出色。精緻に金メッキされた車両やICチップを実装した車両が走り、アクリル装飾のトンネルをくぐる様子に、人々が群がってました。

